大阪

自衛官親子の格闘演武で注目集める
関西ジュニア空手大会で自衛隊広報活動

大阪地方協力本部十三募集案内所は10月6日、大阪市内の複合施設で開催された「第17回関西ジュニア空手道選手権大会」に参加し、自衛官募集の広報活動を行いました。

この大会は国際空手道「拳聖塾」が主催し、小中学生を中心に約500人の選手が参加、約2000人の来場者を集める関西最大級の空手道選手権です。

「拳聖塾」最高師範で自衛官募集相談員も務める徳広隆氏のご厚意により、昨年に続いて2回目の参加となりました。今年は主催者から「自衛隊の格闘演武を披露してほしい」との要望があり、各部隊に協力を依頼した結果、全国でも珍しい自衛官親子による格闘演武が実現しました。

演武を披露する平田親子

徳広最高師範が開会のあいさつで「拳聖塾の設立には自衛隊での経験が活かされている。今日は自衛官による格闘演武と自衛隊流トレーニング法を紹介するので、参考にしてほしい。また、自衛隊の募集ブースにも立ち寄って話を聞いたり、自衛隊の格闘体験を楽しんでほしい」と、自衛官募集についても触れました。

今回の格闘演武を披露したのは、陸上自衛隊今津駐屯地業務隊所属の平田展康准陸尉と、第37普通科連隊所属の平田悠朗（ひろあき）2等陸曹の父子です。親子がそれぞれ離れた部隊で勤務しているため一緒に練習は行えなかったものの、息の合った演武で会場から拍手喝采を浴び、試合を控える選手たちにとっても良い刺激となりました。

大会中は、徳広最高師範の紹介もあり、多くの選手や家族、大会関係者が募集ブースを訪れました。

来場者は、自衛隊の格闘体験や平田親子と一緒に行うトレーニング、制服試着や記念撮影などを楽しみ、ブースは大変な盛況となりました。

さらに、募集ブースではアンケートを実施し、40代の来場者からは「年齢的に常備自衛官は難しいが、予備自衛官補としてなら参加したい」との声や、「自衛隊の格闘は迫力があった」「自衛隊でも空手が続けられるのか」といった質問もあり、格闘演武と募集ブースの運営を通じて、大きな成果を得ることができました。

群馬

片品中学校で防災教育を実施
生徒が考える「その時、どうする」

群馬地方協力本部沼田地域事務所は9月6日、片品村立片品中学校にて全校生徒80人を対象に防災教育を行ないました。

群馬県は比較的災害が少ない地域ですが、県北部の山間部に位置する片品村は、近年多発している集中豪雨による崖崩れや土砂災害のリスクが高く、災害への備えが求められています。

質問形式での防災教育

この防災教育では、生徒が災害時に自分で考えて行動できるよう「その時どうする？」「何が必要か？」と質問形式で考えてもらいました。

また、過去の災害映像や体験談を交え、具体的な状況をイメージしながら学べる内容となっていました。

生徒たちからは、実際の災害映像に「初めて見ました」「すごい」「怖い」と驚きや感想の声が上がり、日頃からの備えの重要性について意識を高める機会となりました。

また「体験談を聞く機会がなかったので、深く考える時間になりました」「日頃の準備や防災訓練の重要性を学びました」といった感想も寄せられ、先生からも「災害がいつどこで起こるか分からないことを学び、防災意識が変わった生徒が多かったように感じます」との言葉がありました。

京都

パリ五輪銀メダルで特別栄誉賞を受賞
「網野魂」への思いとレスリングの魅力を伝える

京都地方協力本部は10月11日、京都府庁で開催された「京都府スポーツ賞表彰式」に同席しました。

この式典では、パリ五輪のレスリングフリースタイル74kg級で銀メダルを獲得した自衛隊体育学校の高谷大地1等陸尉が、京都府民に大きな感動を与えた功績として、「特別栄誉賞」を西脇京都府知事から授与されました。

表彰式後の記念撮影

さらに、高谷1尉は母校の京都府立丹後緑風高校（旧網野高校）に凱旋し、応援してくれた全校生徒や学校関係者に感謝の気持ちを伝えるとともに、後輩たちへ熱いメッセージを送りました。生徒たちは高谷1尉の言葉に真剣に耳を傾け、目を輝かせていました。

高谷1尉は「人間力を高めつつ、レスリングの魅力を広める中で、自分が培った『網野魂』も伝えていきたい」と、今後の普及活動への意欲を語りました。

表彰式は終始和やかな雰囲気で進行し、高谷1尉は、人気アニメ『推しの子』のポーズをリクエストされ、笑顔で記念撮影に応じていました。

翌日、高谷1尉の地元である京丹後市では、後援会による報告会が開催され、約100人の参加者の前で銀メダル獲得の報告を行いました。また、中山京丹後市長から「市スポーツ特別栄誉賞」が授与されました。

さらに、高谷1尉は母校の京都府立丹後緑風高校（旧網野高校）に凱旋し、応援してくれた全校生徒や学校関係者に感謝の気持ちを伝えるとともに、後輩たちへ熱いメッセージを送りました。生徒たちは高谷1尉の言葉に真剣に耳を傾け、目を輝かせていました。

高谷1尉は「人間力を高めつつ、レスリングの魅力を広める中で、自分が培った『網野魂』も伝えていきたい」と、今後の普及活動への意欲を語りました。

熊本

バイクイベントで自衛隊を存分にPR
機動戦闘車などがレース場を走行し、観客を魅了

熊本地方協力本部は9月15日、熊本県菊池郡大津町にあるHSR九州で開催されたイベントに参加し、観客やレース参加者約2000人の前で募集・広報活動を行いました。

HSR九州は、年間を通じて車やバイクのレースを中心にイベントが行われる公式サーキット場で、全国から多くの乗り物ファンが集まり、延べ数十万人が来場する有名な施設です。

サーキット場の自衛隊車両

今回は、HSR九州で年3回（5月、9月、11月）開催される「鉄馬ﾐｰﾃｨﾝｸﾞβﾁﾀﾆｳﾑ」に初めて参加しました。

「鉄馬」とはバイクを指す総称で、日本のオートバイが欧米メーカーに対抗し、エンジンやフレームの技術で世界を驚かせたことから名付けられました。「鉄馬ﾐｰﾃｨﾝｸﾞβﾁﾀﾆｳﾑ」は、バイク愛好者のためのイベントで、βチタニウムなどの部品を使ったバイクでレースを楽しむ大人向けの催しです。

今回のイベントでは、全国各地から多くの来場者やSNSで情報を発信する人々が集まることを踏まえ、自衛隊車両の展示・走行によるPR活動を実施。陸上自衛隊第8師団第42即応機動連隊の協力を得て、16式機動戦闘車（MCV）と96式装輪装甲車（WAPC）を披露し、セーフティーカーとしてくまモンがラッピングされた熊本地本の業務車2号による先導走行や、装輪装甲車の走行競技などを通して、レース場でその性能をアピールしました。25分間の走行時間中にはアナウンスも行われ、会場全体の注目を集める絶好の機会となりました。

公式サーキット場での装輪装甲車の走行は前例がなく、観客からは「自衛隊の車がレース場を走ってる！」「自衛隊の装甲車ってすごい！」という歓声が上がり、会場は大いに盛り上がりました。

茨城

再会の喜びと成長
元入隊希望者と同僚としての再会

茨城地方協力本部常西地域事務所　2等陸曹　出町　由大

合同庁舎前で再会の記念撮影

約3年前の令和3年2月、は難関であったため、最終的に陸上自衛隊を受験し、採用予定通知書を手に入れました。

彼女の配属先は北海道旭川の駐屯地で、厳しい寒さや雪かきなどの雪国特有の苦労を経験しましたが、それでも海自への情熱は消えませんでした。そして、再び海自の試験に挑戦し、見事に合格しました。

彼女は2等海士として海自に入隊し、初任海士課程を修了後、呉基地を母港とする輸送艦「おおすみ」の運用員に配属されました。

今回の臨時勤務は、彼女が運用員として働きながらも、募集・広報業務に興味を持ち、現場を知りたいという希望で実現したものです。入隊をサポートした隊員が、自分がまだ広報官として勤務している間に同じ職場に来るとは思っていなかったので、再会には驚きました。

彼女が臨時勤務で来てくれたことは、海に面していない茨城県西地区において、海自に対する理解と関心を高める大きな助けとなりました。地域の中学校で行われた「職業人に学ぶ会」では、彼女の姿を通じて「自衛隊＝男性社会」という先入観を払しょくすることもできました。

さらに、県内各地で行われたイベントにも積極的に参加し「自衛隊女子」としてのアピールに貢献してくれました。ミニ制服の試着も、募集・広報業務に興味を持ち、現場を知りたいという希望で実現したものです。入隊をサポートした隊員が、自分がまだ広報官として勤務している間に同じ職場に来るとは思っていなかったので、再会には驚きました。

彼女が臨時勤務で来てくれたことは、海に面していない茨城県西地区において、海自に対する理解と関心を高める大きな助けとなりました。地域の中学校で行われた「職業人に学ぶ会」では、彼女の姿を通じて「自衛隊＝男性社会」という先入観を払しょくすることもできました。

さらに、県内各地で行われたイベントにも積極的に参加し「自衛隊女子」としてのアピールに貢献してくれました。ミニ制服の試着も、募集・広報業務に興味を持ち、現場を知りたいという希望で実現したものです。入隊をサポートした隊員が、自分がまだ広報官として勤務している間に同じ職場に来るとは思っていなかったので、再会には驚きました。

彼女と同僚として再会し、隊員として大きく成長している姿を目の当たりにして、非常に感慨深いものがありました。長い自衛隊生活の中で、先を見据えたキャリアパスをしっかり考えている彼女に対して、親心のような感情が芽生え、今後の活躍がますます楽しみです。

人との出会いはさまざまですが、今回の再会で得た経験を活かし、これまで培ってきた経験を武器に、今後も募集業務にまい進していきたいと思います。

山口

隊員と企業の積極的な面談、再就職への一歩
退職予定者60人と企業53社が参加、採用に期待感

山口地方協力本部は9月9日、山口市内のコンベンション施設で、一般財団法人自衛隊援護協会広島支部主催の「令和6年度山口県任期制隊員等合同企業説明会」を行いました。

企業との面接に臨む隊員たち

この説明会では、山口県内の企業への就職を希望する陸・海・空自衛隊の退職予定者60人が参加し、製造、建設、サービス業など多様な業種の53企業との面談に臨みました。参加企業はいずれも県内に事業所を持ち、各隊員は再就職先として関心のある企業との面談を進めました。

隊員たちは、終始真剣な態度で企業の採用担当者の説明を聞き、再就職に対する不安と期待感が入り混じる様子が見られました。

参加者の中には「気力や体力には自信があるので、運転、建設産業分野を中心に面談を行った」「企業の説明を聞いて、具体的に働くイメージがつかめた」という声もあり、説明会は大変有意義なものとなりました。

また、輸送関連企業からは「自衛隊OBの社員がすでに活躍しており、信頼を置いている。2024年問題や人手不足もあるので、ぜひ人材確保につなげたい」と、採用に前向きな意見が寄せられました。

会場内には、隊員の疑問や不安を解消するために、山口公共職業安定所などによる就職相談コーナーが設けられました。

さらに、参加企業には予備自衛官等制度の説明が行われ、制度の理解促進や協力関係の強化を図りました。

また、中隊長など指導者に向けて雇用協力企業による講演会が併催され、今後の隊員指導力の向上を目指しました。

大阪

陸上自衛隊中部方面隊募集広報の日
自衛隊の魅力を伝えるイベントに募集対象者などが参加

大阪地方協力本部は10月5日、陸上自衛隊伊丹駐屯地で「中部方面隊募集広報の日」を開催し、募集対象者など120人を案内しました。

このイベントは、中部方面総監部が毎年、創立記念行事の前日に実施しているもので、募集対象者に向けて計画されています。

参加者は、陸・海・空自衛隊のそれぞれの説明ブースを訪れ、装備品の展示や体験を通じて魅力を知ることができました。各ブースでは隊員が丁寧に説明し、参加者は装備品を見学したり操作を体験する機会を得ました。特に、装備品の展示には参加者の関心が高く、記念撮影や体験を楽しむ姿が見られました。

隊員居室の見学

また、中部方面衛生隊の隊員が実際に生活している居室の見学も行われました。中部方面隊の処遇改善施策の一環として「営内モデルルーム」も案内され、特に保護者からの関心が非常に高かったです。これにより、隊内での生活環境についての不安や疑問が解消されたとの声が多く寄せられました。

参加者からは「装備品を一度に見られる機会は貴重だった」「自衛隊には多くの職種があり、自分にもできることがあると感じた」「生活環境を見て、安心した」という意見があり、自衛隊を身近に感じる良い機会となりました。今後、中部方面総監部などでは、募集対象者や保護者向けのイベントを引き続き企画する予定です。

栃木

オリンピック選手による柔道指導を開催
高校生が技を学び、メダル展示も実施

栃木地方協力本部小山地域事務所は10月6日、宇都宮市のスポーツ総合施設において、栃木県柔道連盟強化委員会の協力を受け、オリンピック選手による広報活動を行いました。

稽古の合間での記念撮影

この広報活動では、第78回国民スポーツ大会「SAGA2024」の強化合宿に自衛隊体育学校所属の新添左季2等陸尉が参加し、大会に出場する選手や県内の高校生などの柔道部員約180人を対象に稽古や技術指導を行いました。

直接指導を受けた高校生からは「技のコツがつかめた。これからの柔道に活かしてみたい」との声があり、オリンピック選手の技を体感できたことに喜びの表情を見せていました。

また、見学に来ていた家族からは「子供がオリンピック選手と一緒に柔道をしているなんて感動的だ！」と、参加者以上に興奮した様子が見られました。

今回は、オリンピック選手による稽古や技術指導に加えて、広報ブースも設置され、体育学校の広報映像やオリンピックのメダルが展示されました。銀メダルは実際に手に取ったり首にかけたりすることができ、訪れた子供たちは「メダル重ーい！」と貴重な体験を楽しんでいました。

大阪

高校生TikTok部、駐屯地で広報動画を制作
短い動画で若い世代に自衛隊の魅力を伝える

大阪地方協力本部東大阪地域事務所は9月21日、府立四条畷学園高校のTikTok部が部活動の一環として制作する広報動画の撮影を陸上自衛隊信太山駐屯地で支援しました。今回の撮影は、同部の発信力にご協力いただき高校生世代に自衛隊の理解を深めてもらうことを目的に企画され、信太山駐屯地広報室の協力を得て実現したものです。

中方ユーチューバーとの共演

撮影当日は、四条畷学園高校の校長代理兼広報部長である小山先生が引率し、女子部員7人が駐屯地を訪問。部員たちは中方広報室のユーチューバーと共に駐屯地内の施設や装備品を見学しながら、広報用の1分動画やTikTok用の15秒動画を撮影しました。1年生が1分動画を、3年生が15秒動画を担当し、それぞれが自衛隊の魅力を短い時間でどう表現するかについて真剣に議論しました。また、隊員たちに「なぜ自衛隊に入隊したのか」「自衛隊の魅力は何か」といった質問をしながら動画制作に取り組みました。

さらに、信太山駐屯地広報室の厚意により、部員たちは高機動車に乗って駐屯地内を見学したり、体験喫食を行ったりしました。

初めての経験に笑顔を見せ「動画撮影に加えて、とても良い体験ができました」と部員たちは満足した様子でした。

青森

砕氷艦「しらせ」19年ぶりの青森港で一般公開
青森400年記念で自衛隊が多彩な展示と交流イベント

青森地方協力本部は10月13日と14日の両日、青森港新中央埠頭において、砕氷艦「しらせ」（艦長・齋藤一城1等海佐）による艦艇広報活動を支援しました。この広報は「みなとまち・あおもり誕生400年実行委員会」が主催したものです。

採用種目を説明する広報官

海上自衛隊横須賀基地を母港とする砕氷艦「しらせ」は、19年ぶりに青森港に入港しました。歓迎式典では、青森ねぶた祭のはやし方とハネトが登場し、乗員を温かく出迎えました。

一般公開では、受付開始前から多くの来場者が集まり、艦内や航空機2機を収納可能な格納庫を見学しました。さらに甲板では「南極の水体験コーナー」が設置され、来場者は南極に思いをはせる貴重な体験を楽しみました。

岸壁では、陸上自衛隊青森駐屯地からの82式指揮通信車や軽装甲機動車、救急車、オートバイの展示、航空自衛隊車力分屯基地からの地対空誘導弾などの装備展示が行われ、来場者は自衛隊員の詳しい説明を聞きながら興味深そうに見学していました。また、海上自衛隊八戸航空基地のP－3C哨戒機が歓迎飛行を行い、「しらせ」との共演に来場者は大いに喜びました。

青森地本は自衛隊PRコーナーを開設し、見学後の来場者に自衛隊に関する説明を行いました。ミニ制服の試着やVR体験、自衛隊メタバースなど、子供から大人まで楽しめるイベントも行なわれ、多くの家族連れや学生が訪れました。

さらに、今年のパリオリンピック近代五種日本代表で銀メダリストの佐藤大宗2等海曹がPRコーナーに来場し、来場者はメダリストとの記念撮影を楽しみ、会場は一層盛り上がりました。

2日間にわたる砕氷艦「しらせ」の艦艇広報には約8500人が来場し、大盛況のうちに終了しました。

佐藤選手との記念撮影

神奈川

護衛艦「くまの」一般公開と多彩な展示
地元住民との交流と防衛に対する理解を深めるイベント

神奈川地方協力本部は10月12日と13日の両日、川崎市川崎区の川崎マリエン周辺で開催された「第51回川崎みなと祭り」に参加し、護衛艦「くまの」の一般公開を行いました。

東扇島ふ頭の会場には2日間で約6000人を超える来場者が訪れ、天候にも恵まれた中、迫力ある護衛艦の姿や甲板からの眺望を楽しんでいました。

また、護衛艦「くまの」では特別公開も行われ、乗員の家族や自衛隊関係者が招待されました。参加者は乗員の案内で艦内や艦橋を見学し、最新の装備に間近で触れる機会を得ました。

さらに、神奈川地本のスクールモニターとして参加した大学生や、防衛大学校・航空学生を目指す高校生も見学に訪れ「最新の艦艇装備に驚いた」「艦長席に座らせてもらい、受験への意欲がさらに高まった」といった感想が寄せられました。

会場では陸上自衛隊高等工科学校の吹奏楽部、和太鼓部や、ドリル部が日頃の練習の成果を発表し、観客からは盛大な拍手が送られました。

また、神奈川地本の広報ブースでは災害復旧支援活動の写真パネルや南極の氷の展示、迷彩服の試着体験コーナー、広報官による入隊制度の説明など、さまざまな企画が実施され、多くの来場者でにぎわっていました。

特徴的な艦影をバックに記念撮影

さらに、地本のキャラクター「はまにゃん」「たま」「トップにゃん」も登場し、子供たちからは「かわいい！」と歓声が上がり、護衛艦「くまの」を背景に記念写真を撮る姿も見られました。

ひとりで悩まずご相談下さい！

自衛隊家族会は
★決して会員をひとりにはしません！
★いつもそばにおります！
★解決に向けてみんなで汗をかきます！

まずは、近くの家族会会員へ。
そして、お気軽に「問い合わせ窓口」へ。

1　「問い合わせ窓口」への問い合わせ先・要領

自衛隊家族会事務局（担当）　髙橋　隆志（たかはし　たかし）
◇電　話：03－5227－2468　（平日 09:00～16:00）
◇メール：jkazokukai@jkazokukai.or.jp　（常時、ただし返信は平日）

「総括相談員」　鍛治　雅和（かじ　まさかず）
◇番　号：080－4630－8987　（平日 09:00～16:00）

○ 問い合わせ者は、まず「氏名（匿名可）」「所属家族会（部隊等）」など述べた後に、必要な「問い合わせ」を実施して下さい。不在時には「相談員」から電話しますので、事前に「非通知設定」の解除をお願いします。
○ ご不明な点は、髙橋までご連絡下さい。

2　問い合わせ　「相談員」

役　職・氏　名	担　当　内　容
家族会運営委員（陸自OB） 手塚　信一（てづか　しんいち）	◇家族（隊員）に関する問い合わせ （主に陸上自衛隊）
家族会理事（海自OB） 鍛治　雅和	◇家族（隊員）に関する問い合わせ （主に海上自衛隊）
家族会理事（空自OB） 荒木　淳一（あらき　じゅんいち）	◇家族（隊員）に関する問い合わせ （主に航空自衛隊）
家族会副会長（陸自OB） 宮下　寿広（みやした　としひろ）	◇家族会全般に関する問い合わせ
家族会事務局員　髙橋　隆志	◇家族会の管理に関する問い合わせ

相談無料！　個人情報・秘密厳守！　問題解決実績多数！